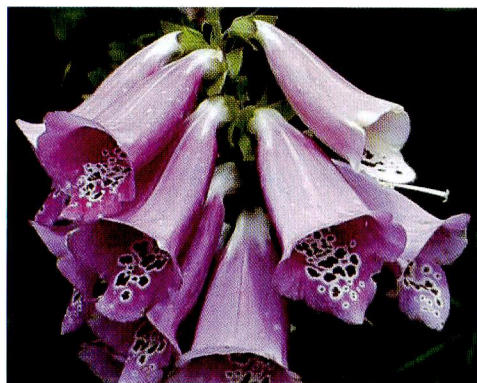


## Digitalis ジギタリス [不整脈]

Digitalis purpurea L.

### BACK GROUND

Digitalis purpureaは、西ヨーロッパから南ヨーロッパ原産で、ゴマノハグサ科ジギタリス（キツネノテブクロ）属の2年草、または多年草のジギタリスです。



(A)

草丈は50～180cmくらいです。茎は直立し分枝はありません。下部の根出葉は、先の尖った卵円形で、縁に細かい鋸歯があります。上部の茎生葉は、先の尖った幅が狭い葉で、縁に細かい鋸歯があります。茎生葉は互生、根出葉は叢生しています。

開花期は初夏で、花は片側性に総状花序に咲かせます。長さは30～60cm、鐘状で4.0～5.5cmの合弁花を穂状に多数付け、下から順に咲いていきます。1つの花冠は長さ5～7.5cmくらいで、紫紅色で、ときにピンク、白色などもあり、内側には白く縁どられた濃紫色の円形の斑点が多数見えます。

ジギタリスは、古くから民間薬として利用されてきました。強心利尿薬として、1650年にイギリス薬局方に記載されて、今では各国の薬局方に収載されています。ジギタリスは、強心配糖体である purpurea glucoside A、Bを含んでいて、これが分解してジギトキシン、ギトキシン、ギタロキシンなどになります。これらの強心配糖体は、直接心筋に作用します。このほか、各種フラボノイド類（とくにルテオリン）、サポニン、ジギニン、パープロニン、脂肪酸、各種ミネラル類（とくにカリウム）などがあります。

ジギタリスの強心配糖体は、体内に蓄積するため中毒を起こしやすく、治療に使用する投与量と中毒量が非常に近いのが特徴です。

急性中毒としては、動悸、吐き気、頭痛、嘔吐、下痢、腹痛、消化管蠕動運動の変化、視覚異常、視力障

害、かすみ目、複視、視力減退、アレルギー、血小板減少症、女性化乳房、錯乱、不整脈、中枢神経麻などがあります。

さまざまな不整脈を惹起する可能性があり、心室性期外収縮、房室ブロック、心室性頻拍などが代表的です。そのため、治療によるジギタリスは心室性頻拍、心室細動、Ⅱ・Ⅲ度房室ブロック、洞房ブロック、ジギタリス中毒による期外収縮、広範な心筋障害などがある場合には投与できません。

また、低蛋白血症、低K血症、低Mg血症、低Na血症、高Ca血症、アルカローシスなどがあれば、少量投与でも中毒症状を起こす危険が高まります。

### MATERIAL

2年製の開花前の葉を原料とします。開花前の葉は開花後の葉より有効成分の含量が多いのです。

### FIRST PROVING

ハーネマン（『Fragmenta de viribus medicamentorum positivis sive in sono corpore humano observatis』, 1805）。このレメディは、ハーネマンが早期にブルーピングしたものの1つです。

### AFFINITY

心臓、筋肉、循環系（とくに肝臓、肺、胃）、後頭部、泌尿生殖器系などに作用します。右側やや優勢レメディです。

### CLINICAL APPLICATIONS

#### ■心血管系

- ・ **不整脈**：さまざまなタイプの不整脈に考慮されます。とくに、脈が弱く遅く、強い不整がある場合。とくに僧房弁閉鎖不全症を伴う場合。心疾患のために、死への恐怖をもっています。歩行中に心臓が止まってしまうのではないかと怖れることもあります。動いたら心臓が止まってしまうのではないかと思うこともあります。夜眠っているとき、落下する夢を見ることがあります。

- ・ ジギタリス中毒
- ・ うっ血性心不全

#### ■その他

- ・ 肝機能障害：心疾患に起因しています。黄疸を伴うことがあります。

・視覚異常：ブルーピングと臨床例では次のような報告が出ています。目に見える物が黄色く見える。明るい火花のような物が見える、目の前に白点や白い線が浮いて見える。目の前に黒いリングが浮いて見える。明るい線が目に見える。自分の手や他人の顔が青く見える。物が緑色に見える。すべての物の周りに薄い黄色の光が包まれているように見える。朝歩いているときに物に雪がかかっているように見える。他人の顔が死人のように青白く見える。まぶしい物を見られないなど。

・片頭痛

・前立腺炎：とくに高齢者で、前立腺が肥大しています。夜になると頻回に尿意を催します。

・悲嘆：非常に悲しい出来事の後に、強くゆっくりとした動悸がして、不整脈を伴うことがあります。また、不整脈や心疾患がある場合は、悲しい出来事で症状が悪化します。

#### MODALITY

➤ 休息、涼しい空気、仰向けに寝ること、空腹時、圧迫、まっすぐに座ること、頻回の排尿など

➤ 起き上がること、仕事、暑さ、左下に寝ること、動き、食事の匂い、冷たい飲物、冷たい食事、過



(A)

度の性交、睡眠中、話すこと、食後、音楽、興奮など

#### RELATIONS

・ Antidotes : Camphora, China

・ Compatible : Belladonna, Bryonia, Chamomilla, Lycopodium, Nux vomica

・ Incompatible : China

## Dioscorea villosa ワイルドヤム [体を伸ばすと痛みが改善]

Dioscorea villosa L.

#### BACK GROUND

Dioscorea villosa は、北米から中南米、とくにメキシコ原産のヤマイモ科の多年生蔓性植物、ワイルドヤムです。一般的には、Dioscorea, Colic Root, Devil's Bones, Rheumatism Root, Wild Yam, Wild Yamwurzel などと呼ばれています。

この植物は全長4、5mほどになり、葉はハート型をしていて、くっきりとした葉脈が見えます。開花期は春から夏にかけての間で、花は花弁が6枚で0.5cmくらいの緑色がかった花を咲かせます。森や雑木林やその周辺部に生育しています。

学名の Dioscorea は、ローマ帝国時代のギリシア人の外科医であるディオスコリデス (Dioscorides) に由来します。彼はローマ軍の医師であったために、ギリシア、イタリア、ドイツ、スペイン、西アジアなど

各地に遠征し400種類を超える薬草を集めていったといえます。のちに彼は全5巻からなる『De Materia Medica』を著しています。種小名の villosa は、軟らかい毛で覆われたという意味です。

アメリカ先住民は、この植物を消化器系や筋骨格系などのさまざまな疾患の治療に使用し、とくに女性と子供の疾患に多用していました。

この植物は、近年メディカルハーブとして注目されています。この植物が注目されるようになったきっかけは、そのステロイドホルモン様作用によります。1930年代までの女性ホルモン製剤は、すべて豚の卵巣由来のものでした。1940年代になって、これに変わる植物をアメリカの研究者が探し出し、それが Dioscorea mexicana から抽出したディオスゲニンという成分でした。